

令和8年度 第四回 岡山県立図書館とことん活用講座／正宗文庫創立九十周年

塚本吉彦の蒐書

しゅうしょ



青年正宗敦夫を魅了した品々



講師

川崎 剛志氏

就実大学 人文科学部
表現文化学科 教授

昭和十一年（一九三六）、正宗敦夫（一八八一～一九五八）は郷里（現備前市穂浪）に正宗文庫を創設しました。所蔵点数は約七千点、冊数にして約二万冊に及び、個人の蒐集した文庫としては国内最大規模です。

敦夫の蒐書の原点は、明治三十二年（一八九九）から岡山で始まった吉備史談会にありました。当時、敦夫はまだ十代後半。ほぼ毎月開催されたその会では、年長の会員らが自慢の書物や古文書を持ち寄り披露していました。

この講座では、史談会の中心人物、郷土史家の塚本吉彦（一八三九～一九一六）に注目して、全国的にも注目されていた吉彦の蔵書を探ります。

日時 令和8年10月31日（土）
14時～16時（受付13時30分～）

場所 岡山県立図書館
2階 多目的ホール

定員 80名（要申込・先着順・参加費無料）



令和8年9月16日（水）～11月15日（日）2階 郷土資料部門にて
正宗文庫創立90周年記念連携展示「正宗敦夫と正宗文庫 ～ゆかりの人・書物～」を開催

お問い合わせ・お申し込み先



岡山県立図書館
Okayama Prefectural Library

サービス第二課 郷土資料班
〒700-0823 岡山市北区丸の内2-6-30
TEL : (086)224-1308
URL : <https://www.libnet.pref.okayama.jp/>

お申し込み方法

- 当館ホームページ・来館・電話でお申し込みください。
- お名前、お電話番号をお知らせください。
- 定員に達し次第、締切となります。
- 参加決定通知はいたしません。

● 駐車場は有料です。（1時間100円）
認証を受けると1時間無料になります。

「デジ岡」にアクセスして
塚本吉彦 で検索！



SNS・HP



デジタル岡山
大百科



ふるさと納税で岡山県立図書館を応援してください！まずは、「ふるさと岡山応援寄付金」で検索！

塚本吉彦

つかもと よしひこ

岡山県総合文化センター（現岡山県立図書館）には、例えば「備中国賀夜郡服部郷図」や古川古松軒自筆の「備中国加夜郡高松城水攻地理之図」「備中国高松水攻図」「備中国高松水攻図」「備中国高松水攻之図」など「塚本家蔵図書」の印が押された資料が収蔵されている。塚本吉彦の名は岡山の郷土資料に接する者にとっては忘れがたい人物の一人である。

塚本は天保年間（天保一〇〜大正五）の生れ。岡山藩学校に学んだ秀才と伝えられ、郷土の歴史や地理に興味を持って多くの資料を収集し、記録、編纂して、後世の郷土研究の先駆けとなった。号を澹如あるいは好古といった（雑誌『温古』七七号 昭和五年六月）。塚本吉彦は吉備史談会の活動とともに知られる。史談会での講演をまとめた『吉備史談会講演録』（明治三十七年、以下『講演録』と

略す）の緒言によると、吉備史談会は、明治三十二年第三高等学校医学部（のち岡山医学専門学校）の眼科教授として赴任、東田町に住んだ井上通泰が塚本、岡直廬（なおり）、松本胤恭（たねやす）らに、「時々相会して吉備の歴史を研究しては如何」とはかったのが始まりという。同年一月一八日付の「山陽新報」は会長に井上通泰、幹事に塚本・松本・岡のほか、羽生芳太郎（のち永明）の四人が決まったと報じている。

第一回の史談会は明治三十二年八月一三日、井上の家で開催された。会は初め月二回、のちには月一回となったが、会員の増加によって薬師院、国清寺、さらに後楽園栄唱亭などが会場にあてられている。史談会の様子はその都度当時の山陽新報の記事になった。

『講演録』には、塚本のほか、岡直廬、有元稔、正宗敦夫、小野節、羽生芳太郎、井上通泰、武田猛夫などの四〇の講演が収録されるが、このうちには塚本の姪八重

へ与えた古川古松軒の書状を紹介した「古松軒の消息」のほか、「松平忠継君略伝」、「正木大膳亮時堯の伝」などあわせて一六の講演が含まれ、その数は塚本が最も多い。

史談会での講演は生の資料を示しながらの報告であったと思われる。『講演録』の末尾に示される出品目録が物語るところであろう。

塚本は大正五年（一九一六）東京で客死したという。『温古』七七号の記事は、塚本所蔵の吉備文献の多くは東京上野図書館に送ってあったため、不幸にも関東大震災で烏有に帰したと伝えている。『講演録』に紹介された資料はもはや現存しないのであろうか。

当館では『講演録』のほか、その編になる『吉備群書解題』や『類纂虎倉物語』（『吉備郡書集成』第三巻所収）ほかを閲覧できる。

出典『岡山県総合文化センター
ニュース』No.420（H12.3）



「備中国加夜郡高松城水攻地理之図」と「塚本家蔵図書」の印



「デジタル岡山大百科」で公開

